

# 平成23年度 第1回 奈良県がん予防対策推進委員会 議事要旨

日時:平成23年7月25日(月) 午後2時～4時

場所:奈良医大蔵書会館・3階大会議室

出席者:

(委員)大石元、伊藤高広、木村弘、中島祥介、藤井久男、佐伯圭吾、森田隆一、

岡田豊、鴻池通子、高野由子、馬詰真一郎、吉岡敏子

(オブザーバー)久保田幸治、山田全啓

(事務局)橋本安弘、大原賢了他

概要:(以下、主な意見・質問)

(1) <議題1> がん検診台帳の整備状況について

- がん検診台帳は整備できているとは言えない状況。今後の対応はどうか。システムフォーマットを統一して、整備費用も含め検討してほしい。(→ 実態が把握できた段階。他県状況も含め、今後詳細を調べる。台帳活用方法も含め、内容を議論していく。(事務局))
- 個別通知しても受診率上がらない市町村あり。推進員の働きなど、プラスアルファが効果。受診率を上げる方法を調査すべき。
- 通知は機会均等にすべき。台帳は未受診者把握に必要で整備が必要。
- 台帳整備を検討しているが、対象者が何万人という単位であり、手つかずの状況。対応方法について意見を聞かせて欲しい。

(2) <議題2> 精密検査医療機関の調査結果について

<議題3> 胃がん精密検査医療機関の登録基準の変更について

- 施設要件であるので、「専門医がいること」という表現がふさわしい。
- 今回の調査は、現状の患者受入キャパシティであり、今後は、精検受診率が100%となった場合等を想定して調査を行ってほしい。
- 乳腺専門医が県内に5人しかいないと聞いているが、精密医療機関が25もある理由は何か。(→専門医要件は登録要件に含まれていない。(事務局))

(3) <議題4> 平成23年度がん検診精度管理調査の実施について

- 従事者調査では、国チェックリストの要件に合わせ、肺がんでは「呼吸器または放射線の専門医」かどうかを記入させるべき。
- 調査は自己申告であり、結果の検証をどうするのが課題。
- がん検診の精度向上には県医師会自体が前向きである必要がある。
- 大腸がん検診で有症状だが検査無所見の対応を教えて欲しい。(→システムとしては異常なしたが、有症状勧奨を行うべき。)

(4) <議題5> がん対策推進アクションプランについて

- がん予防関係予算はどの程度になるか。(→後日情報提供する。(事務局))
- アクションプランが絵に描いた餅にならないよう、対応してもらいたい。
- 新たに国から公表された受診率は、人間ドックを含むということだが、受診率アップを個人の努力に委ねるといふことか。(→市町村がん検診の受診率を上げないと、全体の受診率は上がってこない。(事務局))
- 居住地の町ではがん検診に定員を設けており、希望しても受診できない状況。

隣町では肺がん検診を実施していない。50%受診率達成のため予算を確保すべき。奈良市の肺がん検診受診率は極めて低い。(→奈良市は定員上限を設けていないが、肺がんは集団検診であり、処理能力に限界がある状況。)

- 受診者の定員制限は聞いたことがある。首長の姿勢が重要。町民の声が重要。医師会の姿勢も大事。首長がやると言えばやる。どのような方法で首長の理解を得るか、県も考えて欲しい。
- 今年から始まった大腸がんのクーポン事業を天理市がやらない理由は何か。保健センターの担当者にも直接聞きたいと思う。

以 上